



広島国際学院
創立87年



紙屋町シャレオ（広島市中区）で開催した第2回七夕祭り「架け橋」

今年の「七夕祭り」は広島市中心部で開催

特集 第2回 七夕祭り「架け橋」	2・3
体験で学ぶ科学技術の楽しさ 工学部	4
学びの成果を広く社会に 情報文化学部	5
実践・体験で心弾む学び 総合教育センター	6
学んで知るクルマの魅力 短期大学部	7
高校から発信	8・9
第26回学外展&音楽祭「あじさい」	10
第5回留学生交流会	10
教員の学位取得	11
高校同窓会総会	11
前現代社会学部長が新著を出版	11
広島地域留学生総会・交流会	
国際親善スポーツ大会	12
自動車短大は創立50周年を迎えました	12
今後の主な行事予定	12

広 報

第95号

平成26年9月1日発行

URL <http://www.hkg.ac.jp/>
※大学ブログも公開中。あわせてご覧下さい。

第2回七夕祭り「架け橋」

～好評博した学生企画が再び 今年も紙屋町地下街で～



親しみやすい演奏で会場を和ませた吹奏楽部

七夕祭実行委員会 委員長 松浦 俊
(総合工学科3年 広島県瀬戸内高校出身)

7月5～6日、紙屋町シャレオ地下中央広場にて広島国際学院大学七夕祭実行委員会主催による第2回七夕祭り「架け橋」を行いました。今回は昨年続き第2回目で、2日間で約180名の学生が参加しました。前回は広島駅南口地下広場(通称ひろちか)にて行いましたが、今回はシャレオ地下中央広場という立地条件が影響し、約5,000名と昨年よりも多くの方々にご来場いただきました。テーマの「架け橋」に込めた思いの通り、大学と地域の方々との交流が深まったのではないかと

思います。

計画当初は、参加サークル・研究室が少なく不安でしたが、最終的に11サークル、6研究室の協力を得ることができました。両日ともステージ企画と展示を常に並行して行いました。どちらも多くの来場者で大変賑わっていました。

ステージ企画では、吹奏楽部による演奏、糸洲会空手道部による瓦



留学生は太極拳演舞で日中の架け橋に

割り・型の演舞、留学生会による民族舞踊・太極拳の披露、学友会によるダンス・寸劇、Music Planning Agency

(MPA)による弾き語り、そして、表千家流茶道部による茶会があり、様々なサークルや団体が日頃の練習の成果などを披露しました。

1日目は吹奏楽部による演奏でスタートを切り、たくさんの曲が演奏され

ました。どの曲も皆が知っているもので、開始してすぐにもかかわらず、多くの方々

が来場してくださり、学生も含め会場にいた皆が聴き入っていました。次に糸洲会空手道部による瓦割りが披露され、勢いあるパフォーマンスに会場中が圧倒されました。更に、アンコールで頭や踵で瓦を割ってもらいました。この時点でも来場者の方々に本大学の活力が十分に伝えられたのではないかと思います。続いて、留学生会による民族舞踊と太極拳の披露があり、普段なかなか目にすることのない美しい衣装や華麗な演舞に皆魅了されていました。そして、学友会によるダンスと寸劇が披露され、会場を更に盛り上げてくれました。特に、寸劇の「国学戦隊マナブンジャー」は家族連れの方々や中高生の方々が一緒に写真を撮るなどして、ステージ外でも大人気でした。



糸洲会空手道部員の豪快な瓦割り



華麗なチベット舞踊も観客を魅了



美しい歌と演奏を披露したMPA

この盛り上がりそのまま、MPAによる弾き語りに移り、美しい歌声とギターの音色に会場は感動の渦に包まれました。最後に糸洲会空手道部による型の演舞で1日目の幕を閉じ、活気ある掛け声と俊敏な動きに、会場だけでなく通行者も思わず足を止め見入っていました。

2日目には表千家流茶道部による茶会が開かれ、おいしいお菓子や冷たいお茶はもちろん、茶道部員の元気な声、美しい所作や笑顔に1,000人近くの来客の方々が癒され、至福のひと時を過ごされていました。以上のように、2日間で様々な催し物をステージと中央部分で行いましたが、これらを裏で支えてくれたのが放送通信研究会(VOD)とMCの皆さんです。企画の段階では私達実行委員に様々なアドバイスをくれたり、司会原稿と一緒に作ってくれたり、当日は音響操作やステージ進行から転換まで全て行ってくれたりと最初から最後まで助けられてばかりでした。彼らなくしてステージ企画の成功は考えられなかったと思います。

展示では美術研究同好会による作品の展示、写真部による写真の展示、電子計

算機研修会による作品の展示、ボランティア部によるバルーンアート、テーブルゲーム愛好会によるボードゲームの体験、校友会によるスムージー販売、生産工学科によるスタンプ作り、スターリングエンジン・ロボットアームの展示、情報デザイン学科による塗り絵、学生が包装紙やラベルをデザインしたもみじ饅頭・ワインなどの展示販売、食農バイオ・リサイクル学科による科学実験などがあり、これらの展示により2日間がとても充実したものになりました。



ボランティア部のバルーンアートは子供たちに大人気中でも、バルーンアート、スタンプ作り、塗り絵は前年に引き続き家族連れの方々に大変好評であり、日中客足が途絶えることなく賑わっていました。また、科学実験では子どもから大人までの幅広い年齢層の方々が身近なものを使用した実験に興味を示し、終始楽しそうに見入っていました。ステージを取り囲む形で展示のブースが並んでいましたが、真中はステージで、その周囲は展示でそれぞれ盛り上がり、両日ともシャレオ中央広場は夏祭りらしい和やかな雰囲気に包まれていました。



生産工学科によるロボットアーム展示も注目を集めた

終わってみると、本当にあっという間でした。企画当初は実施日が2日間になった点、場所の変更など前回と異なった点が幾つかあり、開催2回目にもかかわらず四苦八苦しましたが、シャレオの関係者の方々、参加学科・サークルの皆さん、教職員の皆さん、夜遅くまで準備・片付けを手伝ってくれた皆さん、そして、来場者の方々に支えられてこの第2回七夕祭りを無事に終えることができました。協力して下さった方々がいたからこそ、このイベントは成立したと今でも実感しています。この場を借りて心からお礼申し上げます。本当にありがとうございました！



お茶は冷たく、もてなしは温かな表千家流茶道部

体験で学ぶ科学技術の楽しさ

工学部

客員教授・ダス先生による講義

本大学客員教授、ナチケタ ダス教授(インド ラベンシャウ大学地質学部学部長)が、食農バイオ・リサイクル学科の学部生および物質工学専攻の大学院生に英語で授業を行いました。

佐々木健学長および文部科学省学術研究員である佐々木慧先生の通訳も交え、広島の水環境や水環境マネジメントについて学びました。また、日本の中でも広島の水はなぜおいしいのか、広島温泉はなぜ身体にいいのかなど、広島の水環境について日本とインドや中国など諸外国との比較を交えながら、過去数年間の佐々木研究室での共同研究の内容を英語で講義しました。



でき上がったカレーで楽しい昼食



ダス先生の英語による講義

受講生からは、「広島の水環境のことを初めて知った」「広島の水がおいしいのがよくわかった」「広島瀬野川がなぜきれいかわかった」「英語は難しかったが通訳で大体わかった」など好評でした。英語が重要とわかったという声も多く聞かれました。

なお、6月23日にはダス先生がインドカレー作りを指導。見慣れぬ食材や英語に戸惑いつつも学生たちは懸命にコミュニケーションを取り、おいしいカレーを作りました。

流しそうめんを涼を楽しむ — 第3回食農体験塾 —

食農バイオ・リサイクル学科では7月19日、ものづくりセンターを会場に恒例の「流しそうめん大会」を実施しました。

1号館横の竹藪から伐採した孟宗竹を樋状に加工する作業や、傾斜を付けた「ながし台」のセットなどで汗を流しました。正午頃から別グループが準備したハム、鶏肉、錦糸卵、椎茸、キュウリなどの具材を入れ、流しそうめんの涼感を満喫しました。また、学生達が水耕栽培で育てたミニトマトのイエローミミ、千果、アイコ、プチプロを食べ比べたり、そうめんと一緒に流したりと、歓声も上がる楽しい時間を過ごしました。



流しそうめん暑さ一服



竹を樋状に加工する学生

折しも高大連携の公開講座で来学していた庄原実業高校2年生の女子生徒2名も、授業の後で飛び入り参加。学生達との交流も図ることができました。

技術のおもしろさを体験してみよう — 高大連携授業を開講 —

最先端の技術、不思議な技術、種々な技術を高校生に体験してもらうために、本年度も好評の高大連携授業「おもしろ技術体験」を、系列高校の生徒を対象に開講しています。

生産工学科では、機械、情報、電気などの分野にわたって多彩な体験学習授業を行っています。機械分野では、最新の3次元CADシステムを使って自分で機械を設計、機械部品変形の実験と応力の解析、スターリングエンジンによるエネルギー変換の実験などが行われています。情報分野では、自ら情報を暗号化、また暗号化された情報を解読するなどの実体験を行っています。また、電気分野では自ら設計したプログラムによるロボットの操作、電気楽器の演奏、電流の制御と観察などを体験することができます。



強い橋をつくる実験



エネルギー変換実験



自作のプログラムのロボット操作体験

「第15回広島国際アニメーションフェスティバル」に参加！
開催前イベント「アニメーション・まんがアート展」でワークショップ！

世界4大アニメーションフェスティバルの一つ、「第15回広島国際アニメーションフェスティバル」が8月21日から25日まで、アステールプラザ(広島市中区加古町)において開催されました。

そのプレイベントとして、旧日本銀行広島支店(広島市中区袋町)で、4月26日から5月5日まで広島メディア芸術振興プロジェクト「アニメーション・まんがアート展」が開かれました。5月5日には本大学情報デザイン学科がワークショップを担当しました。運営にあたった学生には、日頃の学びの成果を発揮できる貴重な経験となりました。たくさんの方々の笑顔に触れ、とても充実した一日になりました。



広島アニメーションフェスティバルの本大学展示ブース



アニメーション・まんがアート展でのワークショップ

また、アニメーションフェスティバル期間中の8月20日から24日まで、本大学情報文化学部と協定を結んでいる韓国の漢城大学校芸術大学アニメーション学科の教員と大学院生を含む9人が訪れ、共同展示を行いました。それぞれ異なる言語や様々な考え方をもっている人々との交流を通してより成長できるきっかけになりました。当日は家族連れを中心に非常に多くの方々が広島国際学院大学の展示ブースを訪れ、楽しんでいました。

それぞれ異なる言語や様々な考え方をもっている人々との交流を通してより成長できるきっかけになりました。

第10回「“ちいさな”平和コンテスト」開催

第10回目となる「“ちいさな”平和コンテスト」が今年も開催されました。

今年のリーフレットは、情報デザイン学科3年生の寺曾真希さん(日彰館高校出身)がデザインしました。平和の象徴である鳩とハートをモチーフに、明るく温かなイメージに仕上がっています。

本年は、手描きのイラスト作品を投稿してくださった方や一人で10点以上の作品を投稿してくださった方など、さまざまな参加者から119点の作品が寄せられました。

7月24日から広島駅地下の本大学展示ブースで全ての作品が、デジタル展示されました。昨年までと異なり、今年は4面のディスプレイを連結したマルチスクリーンとサイドプロジェクターを使用した展示が実施され、今まで以上に迫力のある展示になりました。この展示は8月7日までの予定でしたが、好評につき延長されました。



デジタル展示される作品

被爆70周年の来年も第11回「“ちいさな”平和コンテスト」を予定しています。皆様と共に平和について考えるきっかけとしたいと思います。



「ちいさな”平和コンテスト”リーフレット

棚田百選 井仁棚田源流が名水として鑑定されました

現代社会学科1年生の初年次セミナーでは、毎年地域を決めフィールドワークを行っています。今年は日本棚田百選にも選ばれた井仁地区(広島県山県郡安芸太田町筒賀)で棚田保全のための社会貢献に取り組んでいます。去る5月4日、予備調査として担当の教員有志が田植えのお手伝いをした際に、棚田の源流で水のサンプルを採取しました。

佐々木健学長がこの水を分析したところ、世界遺産である屋久島縄文水や白神山地湧水にほぼ匹敵する水質の名水であるということがわかりました。6月28日、現代社会学科1年生の有志6名、同2年生2名および情報デザイン学科3年生1名が名水鑑定書交付式に参加し、源流を視察しました。

学生たちは井仁地区の高齢化率の高さを知るとともに、井仁棚田の名水を守っていかなければならないと感じ取っていました。名水は“存在”するものではなく、人々が意識の上でも行動の上でも守り続けなければ在りえないということを知り、そのために自分たちにどのような貢献ができるのか考えていました。

今秋、現代社会学科の学生は井仁棚田の水路を清掃する予定です。また、情報デザイン学科では井仁棚田米のパッケージデザインに取り組みます。学生の力が井仁地区に貢献することを願っています。



井仁棚田の源流を視察する佐々木学長(中央)ら

「初年次セミナー」2年目のスタート



初年次セミナー

科目「初年次セミナーⅠ・Ⅱ」(前・後期)が2年目のスタートを切りました。総合教育センター・各学科・事務部による全学的連携のもと、大学生活への円滑な移行を支援する科目です。前期第4週までは、全学科合同セミナー形式で実施しました。第2・3週「大学生の学修と生活」では、総合教育センター作成のテキスト等を使用しながら、大学の社会における位置づけや仕組み・用語、本学院の歴史や建学の精神、本大学の特徴や教育理念などを学びました。また第4週「大学生と人権」では、広島人権擁護委員協議会から講師を迎えて、デートDVをテーマとする特別授業を実施し、大学生として必要な人権に関する知識・認識を身につけました。第5週からは学科別セミナー形式で実施

され、所属学科で学び始めるうえで必要な自覚を身につけるための授業を行っています。なお後期には、ガッツ石松客員教授による特別授業も予定しています。

女性セミナー [第1回～第3回について]

女性セミナーもお陰様で2年目を迎え、一層充実したセミナーを目指したいと思っております。今年度の第1回目は5月28日、本大学大学院の修士生でネイリストでもある山岡千尋氏を「ネイル講座」の講師にお招きして、マニキュアを使わない健康的な爪のお手入れの仕方を教えていただきました。6月18日の第2回目「アクセサリーを作ってみよう!」の講座では、



浴衣を着てみよう!

ビーズアクセサリー認定講師の藤井志津氏と渡辺幹子氏をお迎えして、スワロフスキーやコットンパールを使ったオリジナルのネックレスを一緒に作って楽しみました。また、7月5日の第3回目「浴衣を着てみよう!」では、着付け講師の浜田睦子氏にきちんとした浴衣の着付けを教えていただきました。当日は、本大学の「七夕祭り」がシャレオで開催中だったので、受講生の皆さんは、浴衣姿で祭りに参加することができました。



アクセサリーを作ってみよう!

実際のボランティア活動を知る講演会

「特別キャンパス活動」は、ボランティアやクラブ活動などの自主的な活動に単位が認められる科目です。その一環として、実際のボランティア活動についての講演会が行われました。

6月4日には、けん玉8段である日本けん玉協会の今田弘武氏に講演をお願いしました。テーマは、「心づくり 体づくり けん玉の技 広島から世界へ」でした。まず、全員がけん玉を手にして基本の技の手ほどきを受けましたが、留学生を始めけん玉を初めて手にする学生も多く、成功すると歓声があがっていました。講師の高度な技にも驚きましたが、アフリカやモンゴルなど世界中にけん玉の楽しさと友好の輪を広げているという話も感動的でした。

6月11日には、写真家で宮島や瀬戸内海の自然保護活動をされている脇山功氏の講演会「小さな積み重ね」がありました。瀬戸内海の美しい写真とともに、自然を守る意義と難しさを身近な問題として学ぶことができました。



世界で話題のけん玉に感動

モータースポーツ研究ゼミ

— 専攻科授業、「軽自動車6時間耐久レース」に参加 —

専攻科は選択授業として「モータースポーツ研究ゼミ」を開講しています。安全に速く走る、曲がる、止まる、そして故障しない、を目標に、ボデーのみにした軽自動車に補強、塗装、部品装着などして一から組立てていきます。一度分解した自動車を組み立てることにより、どこに何がどのように付いている、何が走行に必要な物かなど解ります。また、走行に必要なではないが快適性を求めた部品がかなりの重量を占めていること、快適性を捨て、自動車の軽量化を図れば燃費の向上を図れることも理解できます。学生には色々な観点から物事を見ることによって、考え方を豊富にしてほしいと願っています。



力走する短大の競技車

これに加え軽自動車の6時間耐久レースに参加することにより、実際に自動車の整備が行き届いていたか成果を試します。安芸高田市高宮町にあるTSタカタサーキットで昨年開催されたレースでは、2台出場しました。部品の破損やエンジントラブルがあり、途中でピットインする困難なレースでしたが、2台ともゴールできました。1台はクラス3位に入賞しました。

レースにはチームワーク、車両の作製、ドライバー交代など作戦、連携が必要で、モータースポーツ研究ゼミでは様々なことを習得できます。今年も新メンバーでレースに挑みます。

オープンキャンパス



小型エンジンの分解組立に挑戦

7月20日、第2回オープンキャンパスを開催いたしました。快晴の空の下、この度も多くの皆様にご来場を賜り、心より感謝申し上げます。

今回は「エンジンの仕組み」「小型エンジンの分解組立」「シャシダイナモの体験」「自動車部のジムカーナデモ走行」をメインイベントとして、現役学生達のサポートのもといずれの授業も参加者は熱心に聴講していました。各イベントへのご参加をお待ちいただく間に、各所へのキャンパスツアーや個別の受験相談等、今回もオンデマンドに対応しました。ご参加いただいた方々からは、「本短大に絶対入学したい」「次のオープンキャンパスにも参加したい」など多くのご意見、ご感想をいただきました。

これからも皆様方に本短大の魅力を知っていただける機会を設けてまいります。

1. 年生 夏休み期間中の企業研究に向けた講演

～今年卒業したOBが語る本当の社会マナー～

1年生対象の就職支援授業(クルマの整備業)では、訪問マナーや接客マナーも学んでいます。今年は、就職し実際に「生の接客」をしている卒業生をお呼びして講演を行いました。ともに短大OBで広島トヨペット(株)に入社した白井翔馬さん、5年前に全国トヨペット技術コンクールで優勝した大田健二さんです。

特に会社に入社して、学生時代にやるべきこと、やっておけば良かったことなど話していただきました。判らないことや疑問はそのままにせず必ず判るようにすべきこと、同年代だけでなく年配のお客様にも応対できるよう言葉遣いに留意し、専門用語を控えて判りやすい説明が自然とできなければ通用しないこと、仕事では例えば工具の名前を頭に入れておかないと先輩からプロとして叱責されるなど苦労したことや、お客様から喜んでもらったことなど後輩に役立つ講演でした。

質問コーナーでは、何故今の会社を選んだのか、いつ頃から就職のことを考えたのか、会社で必要な資格、女性からは、女性の採用は？今まで採用した実績は？など、多くの質問がなされました。白井さんからは色々な会社を訪問し自分に合った会社を選ぶべきといった回答がありました。これから就職活動を開始する1年生にとって大変有意義な講演でした。



講演する卒業生の白井さん(右)と大田さん

国際交流

豪州音楽交流



シドニーの学校と本高校吹奏楽部の合同演奏

4月18日、オーストラリア・シドニーのInternational Grammar School (IGS)より、生徒と先生方34名が来られ、安芸区民文化センターにて、本高校吹奏楽部の生徒たちと演奏会を行いました。生徒たちは午前中打ち合わせをし、英語や日本語でコミュニケーションをとり、パートごとに練習をしました。午後からの本番では、オーストラリアの生徒たちに続いて本高校の生徒たちが演奏し、最後には、合同で演奏をしました。音楽は言葉がなくても国境を越えて、お互いにコミュニケーションがとれる素晴らしいものであることを生徒たちが教えてくれました。IGSの音楽部長Alison Housely先生は、このツアーで本高校との交流が一番すばらしく旅のハイライトでしたと言われました。

アメリカ・ラスベガスからの訪問

5月29日、アメリカ・ラスベガスのCentennial Hills Active Adult Centerより6名の方と高校生のマイケル君が本高校にやってきました。G2 I型総合学習の授業を見学し、G1-6,7組では生徒たちと交流し、SHR後の掃除も見学しました。アメリカでは生徒自身が掃除をすることがないので、珍しい光景にマイケル君は驚いていました。その後、空手部と剣道部を見学し、剣道の迫力ある竹刀さばきに感動していました。アダルトセンターの方々はお年を召された方々でしたが、とても明るくお元気で、昼休憩には中庭でラインダンスを披露してください、こちらが皆さんから元気のエネルギーをいただきました。マイケル君は日本語を学習しており、日本に興味があるので来年あたり本高校に留学したいと言っていました。



ラスベガスからの訪問団

日米親善高校レスリング交流



アメリカのレスリングチームと記念撮影

6月24日、アメリカ・オレゴン・ワシントン州高校選抜レスリングチームより13名の生徒と3名の先生方が本高校を訪れました。G1-3,4組の柔道と剣道を見学し、剣道では実際に竹刀を握り、「メーン」と掛け声をかけて打ち合いを体験しました。また交流授業では、国際交流委員の生徒たちと好きな漢字の書き方やアメリカの生徒の名前を当て字にして、お互いに英語でコミュニケーションを取りながら色紙を仕上げました。最後にG2-5国際交流委員長^{しんのうらみ}の陣内綾さん(宇品中学校出身)が、藤間流日本舞踊を「どんどん民謡」にあわせて踊り、楽しい交流のひと時を過ごしました。

集団合宿を通して

総合学科 1年4組 ^{うえくもち} 上雲地 ^{あみ} 亜泉 (高屋中学校出身)



全員が息を合わせ練習した長縄跳び

私は2泊3日の集団合宿を通して3つのことを学びました。

1つ目は全員で協力することの大切さです。カッター訓練ではクラス以外の人とも協力して早く船を進めることができました。私は2人でオールを持って漕ぐ席だったので、隣の人と息を合わせて漕ぐのが大変でした。オリエンテーリングでは班の人と協力して順番に問題を解きました。途中で道に迷ったりしましたが、10問中8問を解くことができました。長縄大会では全員で息を合わせて練習し、しっかり飛べるようになりました。

2つ目は規則正しく生活し、全てのことにメリハリを付けることの大切さです。食事を摂る時間、お風呂に入る時間、集いの時間など規則正しく生活することで体調管理ができます。体調が良いと全てのことに力一杯取り組むことができるのでこの2つのことを考えながら生活することが大切だと思いました。

3つ目は早め早めの行動です。10分前行動を守ることで人に迷惑を掛けることなく、次の行事にゆとりを持って移行できます。これからの学校生活に最も大切なことだと思いました。

私はこの集団合宿で学んだ3つのことを今後の学校生活に生かして行きたいと思います。合宿で深めた絆を大切にし、体育祭や文化祭などの行事にクラスで団結してがんばりたいと思います。また、授業開始前には着席し、予習や復習などをして落ち着いて授業に取り組みたいと思います。

体育祭を終えて (追撃の国際!! ~戦え戦士ども~)

PTA広報委員

6月7日、第66回体育祭は前日の大雨のため当日の朝まで実施が危ぶまれる状況でしたが、予定通り開催することができました。新入生497名を迎え、今年の体育祭も活気溢れるものとなりました。

1年生男子の糸乱れぬ集団行動は観客を魅了し、女子のYOSAKOIも息の合った踊りでした。2年生のフォークダンスでは女子が手作りのスカートを着用して雨の中、楽しく踊る姿が印象的でした。3年生の盆踊りでは歌のパフォーマンスで飛び入りもあり、最後の体育祭を満喫していました。メインイベントのクラス対抗リレーでは全力で走る姿とそれを応援する声の迫力に圧倒されました。

クラスの団結力がさらに深まり、今年も例年以上に盛り上がった体育祭になりました。



愛らしいスカートとダンスで校庭も華やぐ

高校



「泣かないで」舞台より

芸術鑑賞の記録

6月27日、梅雨の中休み、曇天の空模様の下、広島市中区白島にある上野学園ホールにおいて、2014年度広島国際学院高等学校芸術鑑賞会が行われました。今年度の公演内容は音楽座ミュージカル「泣かないで」です。遠藤周作著『わたしが・棄てた・女』を原作とするこの作品は、戦争が終わり、復興へと向かって走りをはじめた昭和20年代の東京を舞台に、人間味豊かで献身的に生きたある一人の女性「森田ミツ」の生き様を描いた作品です。

広島県出身の主演、高野菜々さん(森田ミツ役)の圧倒的な歌唱力と大胆な演技を中心として、生演奏と共に繰り広げられるリズムカルなダンスに会場は引き込まれていきました。2時間30分を超える公演時間が、とても短く感じられました。

生徒達は、有名な文学作品を題材とした生の舞台の迫力や音楽美にふれ、感動を味わうと同時に感性が磨かれたことと思います。また、生徒の集中力に満ちた鑑賞態度、拍手などにおけるマナーの良さにも感心しました。

第26回定期演奏会を終えて

— 吹奏楽部 —

6月22日に吹奏楽部の第26回定期演奏会が開催されました。3年生として最後の定期演奏会。いつもながら企画や小道具製作、曲の練習に追われ、当日まではあっという間に過ぎていきました。

第1部はクラシックで2014年度コンクール課題曲の行進曲『勇気のとびら』やラフマニノフの『パガニーニの主題による狂詩曲』、そしてレスピーギ作曲の大曲『ローマの松』を演奏しました。今年ゲストにお迎えした国立音楽大学名誉教授の大阪泰久先生の指揮で演奏した『ローマの松』は特に難曲で、クラリネットやイングリッシュホルン、トランペットなどたくさんのソロもあり、ものすごい緊張感の中で演奏ができたと思います。

第2部では、「レジェンド!!」と題して、「伝説」と言われるアーティストの名曲の数々を中心に構成し、誰もが楽しめるステージを目指しました。クイーンの『We Will Rock You』で幕を開け、中でもビートルズの『オブラディ・オブラダ』では、2年の豊嶋彩夏さん(戸坂中学校出身)がバトンパフォーマンスを披露し、拍手喝采を浴びました。また、アバの『ダンシング・クイーン』では国際名物タップダンスを踊り、家庭科の吉野麻衣先生作成の素晴らしい衣装とともに好評を博しました。最後の『マイケル・ジャクソン・メドレー』ではスタンドプレーやアドリブソロに客席も盛り上がりました。最後までお客様の温かい拍手が心に染み渡る良い演奏会で、感動しました。演奏会を通して、部員の和も強まり、より一層音楽に対する思いが強まったように感じました。

この演奏会を開催するにあたり、多くの方々から多大なるご支援をいただきました。この場を借りて感謝したいと思います。これからも吹奏楽部をよろしくお願いたします。



「伝説」のタップが会場を盛り上げる

第26回学外展&音楽祭 あじさい

第47期学友会文化局 局長 片山 有紀子(総合工学科4年 広島国際学院高校出身)

皆様こんにちは。学友会文化局局長の片山有紀子です。

6月8日、私達文化局と本大学の文化系サークルによる『第26回学外展 & 音楽祭 あじさい』を、安芸区民文化センターにて開催しました。

今回は、展示の「学外展」と演奏の「音楽祭」としての開催でした。

「学外展」では、電気試験受験倶楽部、写真部、ボランティア部、美術研究同好会などの7サークルによる展示が行われました。

ボランティア部によるバルーンアートは子供たちに大人気で、カラフルな作品が披露されました。他にも、電気試験受験倶楽部による電飾、写真部VS学生支援課の写真対決等、個性的な展示や活動が行われました。

3階の特設会場では、映画研究同好会(TOYBOX)による自主制作映画の上映や表千家流茶道部によるお茶点体験、今年初参加のテーブルゲーム愛好会によるテーブルゲーム体験、競技麻雀部による麻雀大会等が行われました。日常では目にすることの少ない茶道部や学生自主制作映画に触れる機会となれば、幸いです。

「音楽祭」では、2階のスタジオで吹奏楽部の演奏やMusic Planning Agency(MPA)所属の2バンドによる演奏が行われました。また、スタジオでの音響やMCとして放送通信研究会(VOD)が担当しました。両サークルとも限られた時間の中で、練習の成果を発揮しすばらしい演奏を披露しました。

私は今年で最後の学外展となりますが、後輩やサークルと共に作り上げた学外展を次世代へとつなげようと考えています。

また、文化局では10月25~26日に大学で行われる高城祭にて文化系サークルの展示(文化展)を開催します。面白い企画も考案中ですので、ご来場お待ちしております。



表千家流茶道部のお茶点体験



吹奏楽部の演奏(音楽祭にて)

第5回留学生交流会

留学生会副会長 楊 東(生産工学科2年 中国・遼寧省出身)
会計 鞠 宏宇(生産工学科2年 中国・遼寧省出身)



軽食をつまみながら談笑する学生たち

今年、本大学は25名の新入留学生を迎えました。新入留学生に対して大学の生活が新鮮で楽しくて非常に魅力があると思いますが、その中に多少の不安感も含んでいるでしょう。そのため、6月11日に、学生支援課主催による平成26年度学内留学生交流会が学生会館3Fのミーティングルームで行われました。当日は留学生56名の他、すでに本大学で学んでいる先輩留学生や日本人学生、留学生をご支援くださっている佐々木学長、鎌倉事務部長、教職員など総勢96名が集まり、食事やおしゃべりを楽しみながら、非常に賑やかな会となりました。

司会進行は2名の留学生が務めました。2人は日本語がまだ上手に喋れないけれども、事前にしっかり練習したことで皆さんの前で話をする勇氣に対してすごく感動しました。交流会の途中でまず日本人学生は面白いダンスを踊ってくれて、皆さんに大好評でした。その次、風船運びゲームです。留学生も日本人学生も積極的に参加し、自分のチームが勝つように一所懸命に風船を運んで、拍手喝采を浴びていました。盛りだくさんの内容があったため、あっという間に40分間の交流会が終わりました。

今回の交流会がきっかけで、参加いただいた教職員と学生に様々なコミュニケーションができればと思います。



白熱のレースで会場を盛り上げた風船運びゲーム

教員の学位取得

Individual profiling of second language learners through word association



氏 名 ヒギンボサム ジョージ (総合教育センター 講師)
学 位 名 博士(言語学)
学位授与大学 スウォンジー大学(英国)

The thesis explores the organisation of second language learners' mental lexicons through the use of word association tests. Following studies with native speakers, research with second language learners began in the late 1950's although much of the methodology and theory had been developed decades before by clinical psychologists. Unlike the L1 studies, the L2 studies have been plagued by inconsistent findings. In an attempt to realise the potential that word association tests have as a method of measuring the organisation of learner lexicons, a series of experiments was conducted. An individual profiling methodology was used. The results indicate that the word class and frequency of the stimuli have little effect on the reliability of the response profiles generated. Improvements to the methodology and issues that arose during the experiments are discussed. The experiments were all conducted in Japan, with college aged learners between early 2007 and mid-2012. In that six year period, over 20,000 responses were elicited from 213 learners involved in the pilot tests and main experiments.

本研究は、英語を母国語としない学習者が、(単語の)連想テストを通して、どのような答え方をするのか、2007年から2012年までの6年間で20,000以上もの大学生の答え方を調査し、各学習者の心理的な語彙パターンの分析を行ったものである。

高校同窓会総会



卒業生の妙技も懇親会に花を添えた

6月28日、ホテル広島ガーデンパレスにて平成26年度広島国際学院高等学校同窓会を開催しました。まず総会では25年度決算報告や26年度活動計画案などが示され、了承されました。

続いて開かれた懇親会には卒業生や来賓、学校職員等100余名が集まりました。来賓として現在の太田茂校長、鶴素直理事長、佐々木健広島国際学院大学学長らが招かれ祝辞を述べました。中でも西本五郎名誉学院長が登壇した折には、96歳とは思えない元気な姿に感激した卒業生が記念撮影に駆け寄るほどでした。また、アトラクションは卒業生の細井済さんが手品を披露。プロ顔負けの流麗な演技で観客を魅了していました。卒業生たちは旧友や恩師との再会を喜び、思い出話に花を咲かせていました。



『好かれる老人 嫌われる老人』 —前現代社会学部長・迫勝則氏、新著を上梓—

6月2日、前現代社会学部長で作家の迫勝則氏(現 理事)が大学退職後初めてとなる単行本を出版しました。新著のタイトルは『好かれる老人 嫌われる老人』。広島東洋カープに関する著作で知られる同氏ですが、本作は高齢化社会における「老人の生き方」を探る風刺エッセイです。孫、健康、テクノロジー、世代間ギャップなど、筆者を含むシニア世代の視点で現代社会をユーモラスに切り取り、読み物としても面白く、元気の内容となっています。

野球を愛する筆者らしく「さこ先生の変化球」という副題がつき、表紙イラストもカープのユニフォーム姿です。ぜひ書店でご覧ください。

県内の留学生、本大学でスポーツに汗 — 広島地域留学生総会・交流会・国際親善スポーツ大会 —

留学生会会長 **于 文博** (生産工学科2年 中国・遼寧省出身)

私は広島国際学院大学留学生会会長、于 文博です。今年の4月から、広島地域留学生会会長になりました。

広島地域留学生会は、1999年に創設し、今年で16年目を迎えています。これまで広島地域留学生会総会・交流会をはじめとする各種のイベントを主催し、2006年からは交流会の後に「国際親善スポーツ大会」を実施しています。

国際親善スポーツ大会における競技の種類は、バスケットボール・ミニサッカー・ソフトバレー・バドミントンで、トーナメント方式で競技を行います。今年、本大学のチームは3つの優勝(バスケットボール・ミニサッカー・ソフトバレー)を勝ち取りました。特に、本大学のバスケットボールチームの皆は優勝を勝ち得るため、半年



バスケットボールも迫力ある攻防が繰り広げられています。大学が留学生のことをしっかりサポートしてくれたため、成功で無事幕を閉じることができました。これからも、今回の活動を通じて得た経験を生かして続いて頑張っていきたいです。



灼熱のグラウンドでミニサッカーの熱い戦い

前から週2回の練習を行いました。

総会・交流会及びスポーツ大会が本大学で無事に成功できるために、本大学の留学生会を中心として1か月前から準備が始まりました。事前の準備や終了後の片付けに参加してくれた人数は約50名(そのうち留学生40名ほど)で、当日の行事への参加者は約250名です。

この度の行事に多くの留学生が参加してくれて、盛大に実施することができたことを心から喜んで



優勝トロフィーを勝ち取り歓喜するメンバー

自動車短大は創立50周年を迎えました

自動車短期大学部創立50周年の記念行事の開催が以下のように決まりました。その準備が進行中です。

開催日は11月1日で、これは本学院の創立記念日にあたります。会場はホテル広島ガーデンパレスで、記念式典では短期大学部創設に奔走されました名誉学院長や理事長、学長、来賓のご祝辞を賜り、その後、記念講演に移ります。「これまでの自動車技術と将来の移動体について」という題目でマツダ(株)の技術研究所所長の農沢隆秀様に講演いただく予定です。講演会終了後にはアトラクションなども盛り込んだ懇親会を開催します。

また、この10年の短期大学部の歩みを記念誌にまとめ発行する予定です。卒業生の皆様のお越しをお待ちしております。



自動車短期大学部全景

★ 今後の主な 行事予定 (赤字は公開行事です)	学 院	創立記念日・短大創立50周年記念行事(11/1)
	大学・短大	後期ガイダンス(大 9/18~19 短 1年 9/11 2年 9/12) 授業開始(大 9/20 短 9/16) 高城祭(10/25~26) 保護者懇談会(短 11/29) 推薦入試(大 11/14 短 11/8) 冬季休業(大 12/24~1/8 短 12/24~1/5)
	高 校	始業式(9/1) 修学旅行(2年10/16~20) 文化祭(11/16) 終業式(12/20)

この広報誌及び第三者認証評価結果はホームページでご覧になれます。

<http://www.hkg.ac.jp/>

高校生以上の方に図書館を開放しています。 詳細は図書館までお問い合わせ下さい。TEL082-820-2536